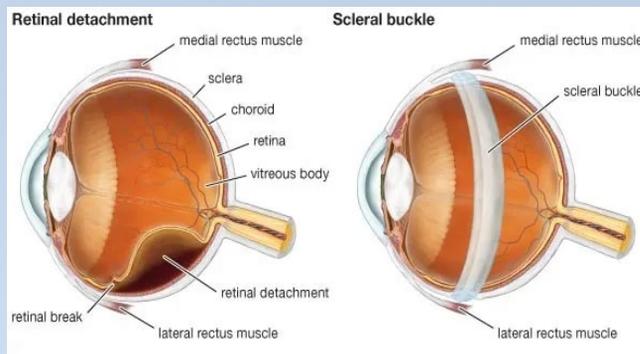


順天堂大学練馬病院外科だより

眼科：網膜剥離に対するバックリング手術

近年全国的に見ても、網膜剥離に対しては、初回から硝子体手術で対応する事が多くなってきています。この流れには様々な要因があるのですが、一方で、古典的な術式であるバックリング手術で治せるタイプの網膜剥離までもが、安易に初回から硝子体切除術で対応されることも増えています。実際、それで問題のない事が多いのですが、一部においては術後結果が芳しくなく、より程度の悪い網膜剥離へと悪化し、「初回は硝子体切除術ではなくバックリング手術での対応が望ましかったかも…」と考え直すこととなります。初回から硝子体切除術の一択という最近の潮流は、先進各国でも同様で、バックリング手術教育の機会が減少し、英国の名高い修練施設でさえ既にバックリング手術教育が実施できない状況となっており、多くの識者からこの流れに対して警鐘が鳴らされています。



当科では、網膜剥離の初回手術では出来る限り低侵襲なバックリング手術で対応するよう心がけており、麻酔科と協力のもと若年者のみでなく高齢者に対してもバックリング手術での対応が可能です。

眼科 武居 敦英

乳腺外科：トリプルネガティブ乳癌に対する新治療

◆早期トリプルネガティブ乳癌（以下TNBC）に対し、免疫チェックポイント阻害剤が保険適用となり実臨床へ導入されていますが、有効性や安全性の報告はまだ少ないです。当科ではKEYNOTE-522試験に準じた術前化学療法を受けたTNBC患者15名に関して、有効性や安全性についてを評価しました。

手術を施行された11例のうち8例(73%)で病理学的完全奏効(pCR)が得られました。



免疫関連有害事象(irAE)は副腎機能低下症、甲状腺機能低下症を2例、間質性肺疾患1例を認めましたが、軽快。皮疹の増悪により1例が投与中止、好中球減少のため8例で減量、休薬期間の延長を認めましたが、重篤な副作用による化学療法の中止はなく、有効な新治療として期待されます。

乳腺外科 小林ゆきの